

## 水防災教育の取組について

# 小学生を対象とした水防災教育の実施

## 取組の背景

- 「水防災意識社会の再構築ビジョン」の中での取組として、防災教育の促進が掲げられている。
- 令和2年度施行の新学習指導要領では、防災教育の内容が拡充されている。

## 実施内容等

- 防災教育に取り組む小学校において、児童が自分事と考えられるように地域性を資料に反映。
- 防災教育による正しい知識習得により、小学生児童の避難の理解力向上に繋げる。

## 当事務所の取組方針

- 水防災教育教材の作成及び配布と、出前講座による水防災に関する総合学習授業の支援の2つを軸に取り組んでいる。今後は現場のニーズを踏まえ、水防災教育教材の改善を進める予定。

### 【令和元年度】

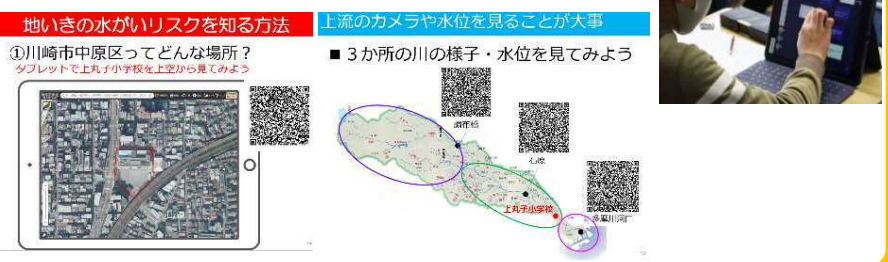
#### 協議会を通じた水防災教材集配布

- 1 水防災教材資料(共通編)
- 2 水防災教材資料(展開例)
- 3 ワークシート
- 4 地域ごとの教材作成要領
- 5 災害時の画像等カタログ
- 6 水防災教育関連の参考リンク集
- 7 川崎市立東小田小学校 教材例
- 8 日野市立平山小学校 教材例
- 9 世田谷区立砧南小学校 教材例



### 【令和3年度】

#### 水防災教育のデジタル教材パッケージ化と (タブレット端末による活用)



水防災教育の教育現場のニーズ把握  
協議会を通じ、アンケートによる水防災教材の  
ニーズ把握

### 【令和4年度以降】

減災協議会を  
通じたデジタル  
教材の配布



試行授業を  
通じた教材の  
見直し



## 參考資料

# 小学生を対象とした水防災教育の実施(令和3年度の取組)

## 【川崎市立上丸子小学校における出前講座(前期)の実施】

実施日時: 令和3年7月8日 9:20~10:10  
実施場所: 多摩川河川敷  
対象児童: 小学5年生 約170人(5クラス)

授業内容

- 1. 多摩川ってどんな川?
- 2. 川の役割やこう水の時の様子を知ろう
- 3. こう水を安全に流すための取組
- 4. 自分の命を守るためにすぐできること



上丸子小学校における国土交通省職員による出前講座(多摩川河川敷にて)

1. 多摩川ってどんな川?

延長は138km。とても急な地形を流れてくたてくるので「流れが速く、川の水位が短い時間で上がる川」です。

スカイリール3つ分

2. 川の役割やこう水の時の様子を知ろう

■ こう水のとき、水が流れる場所はどこかな? 線を引いてみよう。

ヒント: 下の写真をよくみくらべてみてね。

多摩川大雨のときどうなるクイズ

大抵で多摩川の堤防がこわれてしまいました。みなさんの小学校はどれくらい浸水すると思います!

- ① しない
- ② する 50cmくらい
- ③ 1mくらい
- ④ 1m以上

◆ 上丸子小学校の浸水深は約2.4m

◆ 正解児童は約1割程度

多摩川堤防クイズ!

■ 堤防は何でできているのでしょうか?

A 土だけ B たくさんのテトラポット C ほとんどコンクリート

【児童の感想】

- ◆ 河川敷の役割をよく知らずに使っていたけど、今からはしっかりと役割を考えながら使っていきたい。
- ◆ 教えてもらう前までは、そこまで多摩川に思うことはなかったけど、今回の話を聞いて、ごみとか、堤防の話とか、洪水に対する工夫とか、やっぱり向こうの方でも限界があるから、私たちが工夫して被害に遭うことをなくしていけたらいいなと思った。
- ◆ 堤防が土でできているということと、多摩川にごみとかがいっぱいあって、川に影響しちゃうから、今度からごみにも気をつけて、多摩川に接していきたい。

ヒント: 材料が手に入れやすく、ひかめのお金も安くて、あつらいやすいものだよ。

# 小学生を対象とした水防災教育の実施(令和3年度の取組)

## 【川崎市立上丸子小学校における出前講座(後期)の実施】

実施日時: 令和3年11月26日 8:50~12:10  
実施場所: 小学校体育館  
対象児童: 小学5年生 約170人(5クラス)  
※3クラス(2コマ)、2クラス(2コマ)計2回実施

- 授業内容
1. 多摩川での授業(7/8)のおさらい
  2. 洪水が来る前に知っておく情報(地いきの水がリスクを知る方法)
  3. 洪水が来たときに知っておく情報
  4. まとめ



自宅周辺が近いグループに分かれ、タブレットを使った授業の様子



国土交通省職員による出前講座

【前期授業のおさらい】

ほぼ全児童が④  
⇒学校が浸水することを理解

多摩川大雨のときどうなるクイズ

大雨で多摩川の堤防が壊れてしまいました。みなさんの小学校はどれくらい浸水すると思います！

① しない  
② する 50cmくらい  
③ する 1mくらい  
④ する 1m以上

ほぼ全児童がAという回答  
⇒堤防は土でできており、壊れることを理解

多摩川堤防クイズ!

■堤防は何でできているのでしょうか？

A 土だけ  
B たくさんのテトラポット  
C ほとんどコンクリート

今日おはなしたことは、すべて前もって確認することができます。

地震とはちがって、洪水は、前もって

〇〇〇び

が出来る災い。

＜テーマ:水害は準備はできる災害であることを知る＞

自分の家に赤●シールを貼る

＜自宅の浸水深を確認＞

川のようにする方法

①川にせっちしてあるカメラで川をみる

＜タブレットによるカメラの確認＞

「水位」には大事な意味があります

＜川の水位の意味を知る＞

【児童の感想】

◆ 自分は大丈夫と思っていたが、私の知らないところに危険がたくさんあることがわかった。

◆ ハザードマップは知っていたが、しっかり見たことがなく、自分の家や小学校が浸水することがわかった。自分の家が高いといってギリギリまで避難しないのは危ないので、避難するための準備をしたほうがいいと思った。

↓ 【授業の振り返りシート】 家に持ち帰り、自宅の危険性、防災情報の入手確認を実施

保護者の感想

【保護者の感想】

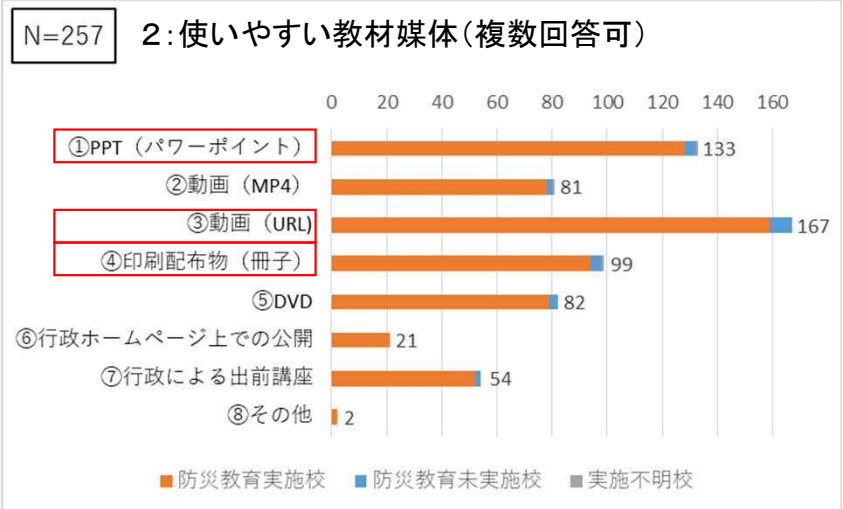
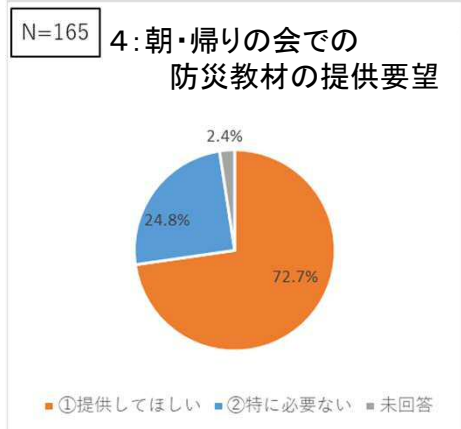
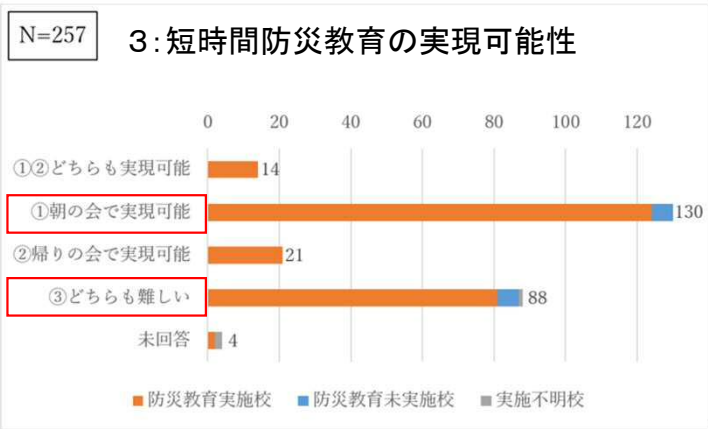
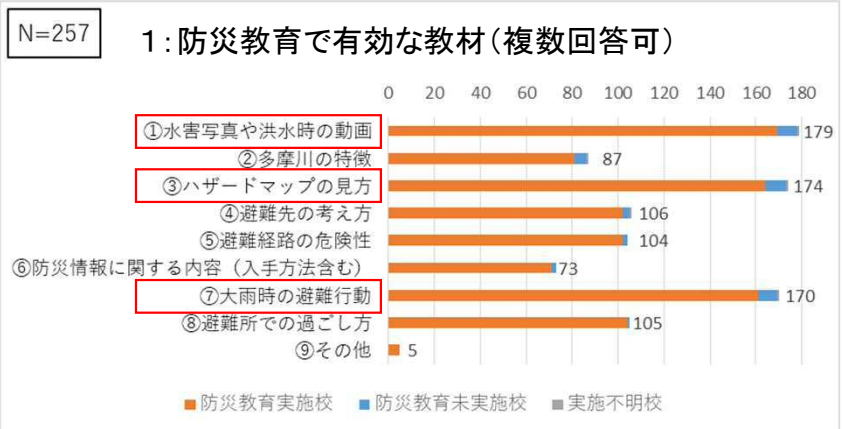
◆ 一層気象情報に気を配るようにしていきたいと思った。2年前の浸水被害を教訓に何を優先し、どう行動に移すか、避難に必要な物がどこに置いてあるかなど再確認しました。

◆ 浸水継続時間のマップなど初めて知る情報もあり、親子で話す機会がもててよかったです。

# 小学校の教諭に対するアンケート実施(令和3年度の取組)

目的: 防災授業の実施状況、タブレット端末等の活用による水防災教材のニーズ等の把握  
アンケート対象者: 流域内の小学校教職員(5年生・6年生)  
配布方法: 減災協議会メンバーより小学校教育委員会、副校長を通して依頼  
回収方法: FAX回答(回答任意)  
実施時期: 令和3年12月18日～令和4年1月21日

【回収率】  
多摩川タイムライン検討部会の構成水防管理団体に立地する192校(回収率44.3%)  
水防管理団体以外の自治体に立地する62校を加えた計254校、教師計257名



【アンケート結果】

- 「水害写真や洪水時の動画」(計179名)、「ハザードマップの見方」(計174名)、「大雨時の避難行動」(計170名)であった。教材への要望は多く見受けられ、「それぞれの学年に対応した、どこの地域でも扱える資料」や、「水防災教育に特化するのではなく、各教科の学習内容に含めていく方が良い」等の意見があがった。
- 「動画(URL)」(計167名)、「PPT(パワーポイント)」(計133名)、「印刷配布物(冊子)」(計99名)が多く、タブレット端末での学習の広がったため、動画(YouTube、クラウド含む)や動画に沿ったワークシート等、データでの提供が望まれている。
- 「朝の会で実現可能」が約51%と最も多い結果となったが、「③どちらも難しい」が約34%と多い結果となった。
- また、防災教材の「提供してほしい」と回答する教員が約73%となった。

今年度成果: タブレットを活用した防災教材を作成予定